

1. 研究例会

第47回 「ICU 初級教科書 “Japanese for College Students” 1 課の構成と教え方」

平田 泉 氏 2004年11月1日

第48回 「IT の日本語教育への利用 1」

Part I 佐藤 豊 氏

Part II 小澤伊久美 氏 2005年2月1日

第49回 「IT の日本語教育への利用 2」

Part I 小林 智子 氏

Part II 鈴木 庸子 氏 2005年2月15日

2. 教員研究活動報告 (2004年4月～2005年3月)

George D. Bedell

研究論文

1. 'The Syntax of Negation in Greek.' *ICU Language Research Bulletin* 19:19-31, 2004.
2. 'Imperative Clauses in Lai and Mizo.' *Asian Cultural Studies* 31, 2005.

研究発表

1. 'Pronouns and Agreement in Chamoru', to appear in *Papers from the Fourteenth Annual Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society* 2004.
2. 'Agreement in Mara', presented to 37th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Literature, Lund, Sweden, 2004.
3. 'Auxiliaries in Classical Japanese', presented to the 6th International Symposium on Languages and Linguistics, Hanoi, 2004.

日比谷潤子

研究発表

1. 「ガ行鼻音衰退をめぐって」第29回関西言語学会（招聘）、2004年10月
2. "Languages shift in Canada: CCR in Japanese-Canadian English", *Canadian English in the Global Context*, University of Toronto, 2005.

広瀬 正宜

なし

根津真知子

(2004年9月～2005年8月 特別研究期間中)

佐藤 豊

研究論文

1. 「韓国語における統語的複合語」、飛田良文博士退任記念論集編集委員会編『日本語教育学の視点』、東京堂出版、2004年9月、pp.306-320.
2. 'A phonologically null copula as a light verb in Japanese.' In M. Endo Hudson, S.-A. Jun, and P. Sells, eds., *Japanese/Korean Linguistics* 13. The Center for the Study of Language and Information(CSLI). (印刷中)
3. 'Acquisition of Verbal Nouns.' (with Yoshie Yamashita) In M. Nakayama, R. Mazuka, and Y. Shirai, eds., *Handbook of East Asian Psycholinguistics: Japanese*. Cambridge University Press. (印刷中)

中村 一郎

なし

平田 泉

なし

鈴木 庸子

論文

1. 「昭和文学に見られる和製外来語リヤカー」、飛田良文博士退任記念論集委員会編『日本語教育学の視点』、東京堂出版、2004年9月、pp.538-552
2. 来嶋洋美・鈴木庸子「独習による日本語学習の支援—その方策とARCS動機づけモデルによる評価—」『日本教育工学雑誌』 27巻3号 pp.347-356

研究発表

1. 「外国語学習における学生間の交流と国際理解教育—ZADANKAI projectを中心に」イタリア日本語教育協会、ローマ大学、2004年3月19日-20日

その他

1. 討論会『変革期の日本語教育と日本語教師』「テーマ3：ITによる日本語教育」(指定討論者)、平成15年度琉球大学留学生センター シンポジウム『教師の役割—今、日本語教師に求められるもの—』2004年2月14日
2. 2004 日本語教育国際研究大会(日本語教育学会、国際交流基金、国立国語研究所共催)(実行委員、世界の日本語教材展 担当)

研究助成金

1. 2004年度 ICU 研究助成基金補助金 “Development and Evaluation of Japanese E-Learning Programs for Academic Professionals : Adopting a Constructivistic Approach” (研究代表者 鄭仁星教授)

尾崎久美子

報告

1. 「教務報告」『ICU 日本語教育研究』 1、ICU 日本語教育研究センター、2005年 3 月

書評

1. 渡辺久美子「W. E. グリフィス著、松浦玲監修、村瀬寿代訳編『新訳考証 日本のフルベッキ』」、『キリスト教史学』第58集、pp.181-182、キリスト教史学会、2004年 7 月

小川 貴士

なし

小澤伊久美

研究論文

1. 「日本語教師が直面する多様な『溝』を乗り越える？ 1. 『溝』に関するアンケート結果報告」、第13回小出記念日本語教育研究会、『小出記念日本語教育研究会論文集』13、2005年 3 月（印刷中）

研究発表

1. 「日本語教育における教師の実践的思考に関する研究—ベテラン教師と新人教師の比較より—」（嶽肩志江・坪根由香里との共同研究）、平成16年度日本語教育学会春季大会、東海大学、2004年 5 月23日（予稿集167-172頁）
2. 「日本語教師が直面する多様な『溝』を乗り越える」（シンポジウム司会及び「1. 『溝』に関するアンケート結果報告」を担当）、第13回小出記念日本語教育研究会、姫路獨協大学、2004年 7 月 3 日（予稿集 5-10頁）
3. 「『イマ』という時間意識が言語化する動詞の本質」（ワークショップ『「イマ・ココ」の日本語：その認知のあり方と日本語教育への提言』の参加者の一人として、新村朋美、熊倉千之、守屋三千代、ハン・キン、池上嘉彦と共に参加）、第 5 回（2004）日本認知言語学会全国大会、関西大学、2004年 9 月18日（Conference Handbook 184-187頁）
4. 「社会文化的アプローチが語学教育に与える示唆？教師は何をどのように見るべきか、そしてどのように行動すべきか？」、研究会シグノ2004年11月例会、2004年11月20日、（研究会シグノ会報123号、pp.3-30、2005年 1 月）

坪根由香里

研究論文

1. 「OPI における中国語話者の『もの』『こと』の使用とその正用順序」『ICU 日本語教育研究』 1、ICU 日本語教育研究センター、2005年 3 月

研究発表

1. 「日本語教育における教師の実践的思考に関する研究—ベテラン教師と新人教師の比較より—」（嶽肩志江・小澤伊久美との共同研究）、平成16年度日本語教育学会春季大会、東海大学、2004

年5月23日（予稿集167-172頁）

黒川美紀子

報告

1. 「コース報告」『ICU 日本語教育研究』 1、ICU日本語教育研究センター、2005年3月

雑誌記事

1. 「マンガで学ぶ日本語会話術 第5回 美容院に行こう！」『日本語ジャーナル』、アルク、2004年8月号
2. 「マンガで学ぶ日本語会話術 第6回 友だちの結婚式」『日本語ジャーナル』、アルク、2004年9月号

3. 教職員一覧

センター教員（教養学部と兼任）

George D. Bedell

日比谷潤子

広瀬正宜

根津真知子

センター長（2008年8月まで）・2004年度夏期日本語教育ディレクター

佐藤 豊

センター長（2004年9月から）・2005年度夏期日本語教育ディレクター・
『ICU 日本語教育研究』編集委員長

中村一郎

平田 泉

小川貴士

尾崎久美子

2004年度夏期日本語教育教務主任・
『ICU 日本語教育研究』編集委員

鈴木庸子

2005年度夏期日本語教育教務主任

小澤伊久美

黒川美紀子

（2004年9月1日着任）

嶽肩志江

（2004年8月31日退任）

坪根由香里

センター嘱託

山崎みゆき

センター事務